
日本ロシア文学会会報 第36号 2008年9月

1. 2008年度(第58回)定例総会・研究発表会
 2. 7月理事会関連事項
 3. 学会賞決定
 4. 会員異動
 5. 国際交流委員会より
 6. 編集委員会より
-

1. 2008年度(第58回)定例総会・研究発表会

第58回定例総会・研究発表会は、来たる10月11日(土)、12日(日)の両日、**中京大学名古屋キャンパス**で開催されます。研究発表会は、3会場26本の発表が予定されている他、特別記念講演会、2本のワークショップが開かれます。

また12日終了後はロシア史研究会、ロシア・東欧学会、スラブ東欧学会との合同企画も予定されております。

以下、日程をご確認の上、同封のはがきで当日のご予定を9月25日(木)までにお知らせいただくようお願いいたします。

なお、当日会場受付では年度会費の取り扱いは行っておりません。会費はこの会報と前後して別便でお送りする振り込み用紙にてお納め下さい。

当日会場での録音、ならびに書籍等の販売を希望される方は、事務局までお申し出下さい。

トルストイ生誕180周年記念特別講演会

トルストイと平和をめぐって

藤沼貴氏

(創価大学客員教授・早稲田大学名誉教授)

日時:10月11日(土) 13:15-14:30

場所:552教室

2008年はレフ・トルストイ生誕180年にあたります。これを記念して特別講演会を開催いたします。

『戦争と平和』や『アンナ・カレーニナ』、『復活』などで知られるトルストイは、人について、愛について、家族について、地球について、そして平和について、どのような考えを持っていたのでしょうか。

トルストイの思想は、一時期古くなったように思われていましたが、21世紀になって逆に、世界の注目を浴びつつあります。それは、物の時代から心の時代へ、人間が人間を見つめる時代へと、人の心が移ってきたことと緊密に結びついています。

日本文化にも多大な影響を与えてきたこの文豪について、『戦争と平和』新訳の偉業を達成された藤沼貴先生に、現代の視点から、あらためて振り返っていただきます。

懇親会のご案内

日時：10月11日（土） 18:30-20:30

会場：サー・ウィンストン ホテル
〒466-0825 愛知県名古屋市昭和区八事本町 100-36
Tel: 052-861-7901（代表）
大学より徒歩3分
地下鉄 鶴舞線、名城線 八事駅 1番出口直結

会費：6,500 円

懇親会場は、総会・研究発表会場から徒歩3分です。ふるって御参加ください。
参加ご希望の方は同封のはがきでお知らせ下さい。

ロシア文学会、ロシア史研究会、ロシア・東欧学会、スラブ東欧学会合同企画

四学会共同シンポジウム「ロシア・東欧の歴史と現在」

報告：和田 春樹、亀山 郁夫、袴田 茂樹

司会・コメンテータ：沼野 充義

日時：10月12日（日）15:00-18:30

場所：名古屋学院大学名古屋キャンパス白鳥学舎

- ◆名古屋キャンパス [白鳥学舎] 〒456-8612 名古屋市熱田区熱田西町1番25号
- 名古屋市営地下鉄名港線 日比野駅1番出口から徒歩約8分
- 名古屋市営地下鉄名城線 西高蔵駅2番出口から徒歩約8分
- 名古屋市営地下鉄名城線 神宮西駅1番出口から徒歩約8分

四学会共同懇親会

日時：10月12日（日）19:00-21:00

場所：名古屋国際会議場・展望レストラン

詳しくはロシア東欧学会のサイト内：
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/roto/2008ngu/index.htm>
をご覧ください。

タイムテーブル

10月11日(土)					10月12日(日)				
開会式 09:20-09:35 521 教室									
		第1会場 521 教室	第2会場 522 教室	第3会場 541 教室			第1会場 521 教室	第2会場 522 教室	第3会場 541 教室
研究発表 (午前)	09:40-10:10	A01	A05	B01	研究発表 (午前)	09:40-10:10	A09	C01	B05
	10:15-10:45	A02 ①(A)	A06 ②(A)	B02 ③(B)		10:15-10:45	A10 ④(A)	C02	B06
	10:50-11:20	A03	A07	B03		10:50-11:20	A11	C03 ⑤(C)	B07 ⑥(B)
	11:25-11:55	A04	A08	B04		11:25-11:55	A12	C04	B08
各支部総会	12:00-12:55				12:00-12:30		C05	B09	
講演会	13:15-14:30	藤沼貴氏 講演会 トルストイと平和をめぐって 522 教室		理事会 58G 教室 13:00-14:30	各種委員会 12:35-13:30				
ワーク ショップ (午後)	14:35-16:15	ワーク ショップ[α] 14:35-16:15 521 教室	ワーク ショップ[β] 14:35-15:50 522 教室	ロシア文学会、ロシア史研究会、ロシア・東欧学会、日本スラブ東欧学会 四学会共同シンポジウム「ロシア・東欧の歴史と現在」 於：名古屋学院大学 15:00-18:30					
定例総会	16:30-18:00	522 教室			四学会合同懇親会 於：名古屋国際会議場・展望レストラン 19:00-21:00				
懇親会	18:30-	サー・ウィンストンホテル (大学より徒歩3分)							

会場案内

〈休憩室〉 542 教室

〈販売・展示〉 551 教室

〈各支部総会〉 関東支部：58C、中部支部：58D、西日本支部：58F

〈各種委員会〉 編集委員会：58A、広報委員会：58C、国際交流委員会：58D、ロシア語教育委員会：58E

研究発表

第1会場:文学 (A) 521 教室

ブロック(テーマ)	番号	氏名	題目	司会者
① (A) 10月11日(土) 午前	A01	赤尾光春	ワシーリー・グロスマンとデル・ニステル—ソ連「ホロコースト文学」の起源—	◎浅岡宣彦 中村唯史 大西郁夫
	A02	秋草俊一郎	謎解きナボコフ『ディフェンス』—モラル・ゲームとして—	
	A03	岩本和久	ヴィクトル・ペレーヴィンと『収容所群島』	
	A04	樫本真奈美	ツヴェターエフ『私のプーシキン』における絵画と色彩	
④ (A) 10月12日(日) 午前	A09	古宮路子	オレーシャの散文と映画	◎楯岡求美 杉本一直 長谷川章
	A10	中野幸男	亡命者の過去への返答—シニャフスキー『おやすみなさい』における作者の自己表象—	
	A11	宮風耕治	ユーリイ・トウニャーノフのSF論	
	A12	宮本宗実	われらが“壁の向こう”で見たものは?—有理数と無理数—	

◎はブロックの責任者

第2会場:文学 (A), 文化, 芸術, 思想など (C) 522 教室

ブロック(テーマ)	番号	氏名	題目	司会者
② (A) 10月11日(土) 午前	A05	木寺律子	劇詩『大審問官』と共同体の問題	◎松本賢一 柿沼伸明
	A06	久野康彦	イヴァン・ツルゲーネフ『まぼろし』論	
	A07	越野剛	ドストエフスキー『悪霊』におけるコレラのイメージ	
	A08	初内裕子	芥川龍之介とツルゲーネフ—「山鷗」をめぐる芥川の読書経験から—	
⑤ (C) 10月12日(日) 午前	C01	有泉和子	ロシア人の見た日本—シュパンベルグ探検隊の日本北辺航海—	◎木村崇 久保英雄 大須賀史和 源貴志
	C02	坂中紀夫	1830-40年代の教育システムにおける新しい関心—C.ウヴァーロフと「ナロードノスチ」—	
	C03	塚田 カ	古儀式派スキンヘッド—ニコライ・コロリョフの『スキンヘッドバイブル・新約』について—	
	C04	一柳富美子	《エヴゲーニイ・オネーギン》プーシキンからチャイコフスキーへ—原詩の音楽的処理を探る—	
	C05	見附陽介	M.M.パフチンの対話理論における人格とモノの概念—C. J. フランクとの比較から—	

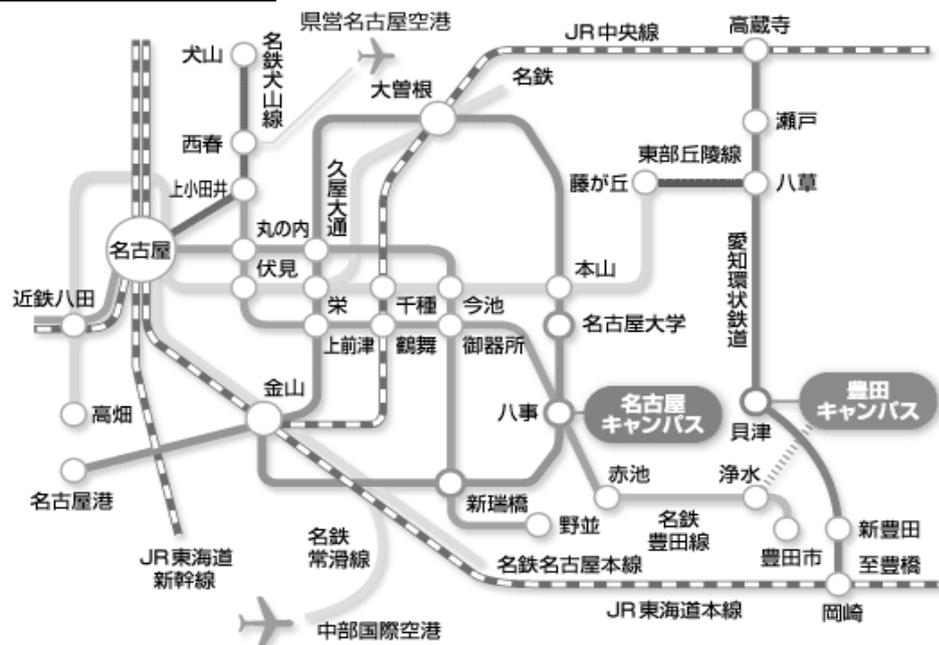
第3会場: 言語 (B) 541 教室

ブロック(テーマ)	番号	氏名	題目	司会者
③ (B) 10月11日(土) 午前	B01	浦井康男	カラムジン『ロシア人旅行者の手紙』におけるテキスト・バリエーションの分析	◎金田一真澄 小林潔 古賀義顕
	B02	エフィーモフ・ゾーヤ	話し言葉の語りにおける談話標識—ロシア語と日本語の対照研究—	
	B03	シャトヒナ・ガンナ	Описание косвенной фонетической межъязыковой интерференции на материале реализации японскими учащимися русских бифонемных консонансов	
	B04	ロゴズナヤ・ニーナ	Механизмы функционирования теоретической модели интерязыка	
⑥ (B) 10月12日(日) 午前	B05	佐藤規祥	自動詞と造格に立つ語との関係	◎林田理恵 北岡千夏 金子百合子 柳町裕子
	B06	鈴木理奈	ロシア語の前置詞と前置詞等価物—数量名詞語形を中心に—	
	B07	クロチコフ・ユーリー	Значение упражнений для предупреждения и устранения грамматических ошибок японских учащихся в структуре практического занятия по русскому языку	
	B08	シヴァコヴァ・ステラ	Русский язык для детей-билингвов и детей-мигрантов в Японии	
	B09	鈴木淳一, 高橋健一郎, 田村愛火, ジダーノフ・ヴラヂーミル	Своеобразие современной русской речи на примере использования логоэпистем	

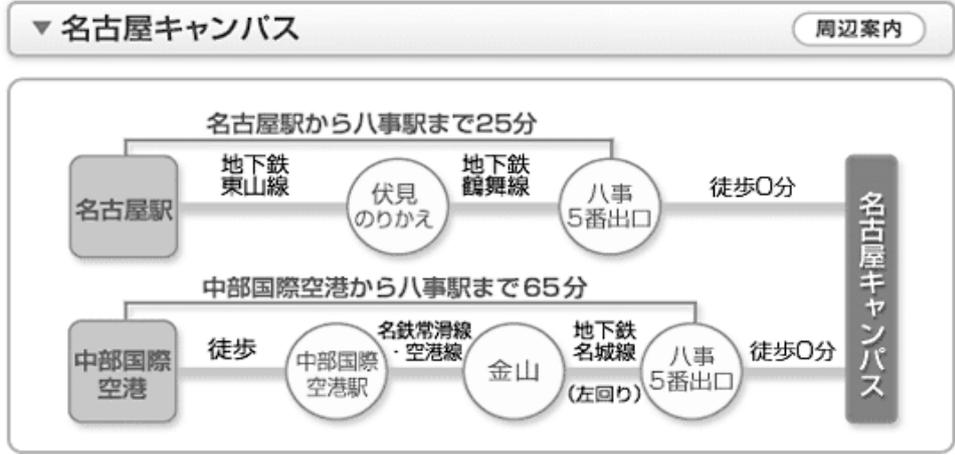
ワークショップ

10月11日(土)	題名	発言者
第1会場 521 教室	[α] ロシア文学にとって翻訳とは何か? —理論・実践・受容—	司会: 望月哲男 パネリスト: 木村崇, 沼野充義, 吉岡ゆき コメンテーター: 柴田元幸
第2会場 522 教室	[β] チャストウーシカの複合的研究に向けて —コストロマ州ネレフタ地区の採録資料を題材に—	パネリスト: 伊東一郎, 熊野谷葉子, 柚木かおり

中京大学への交通機関



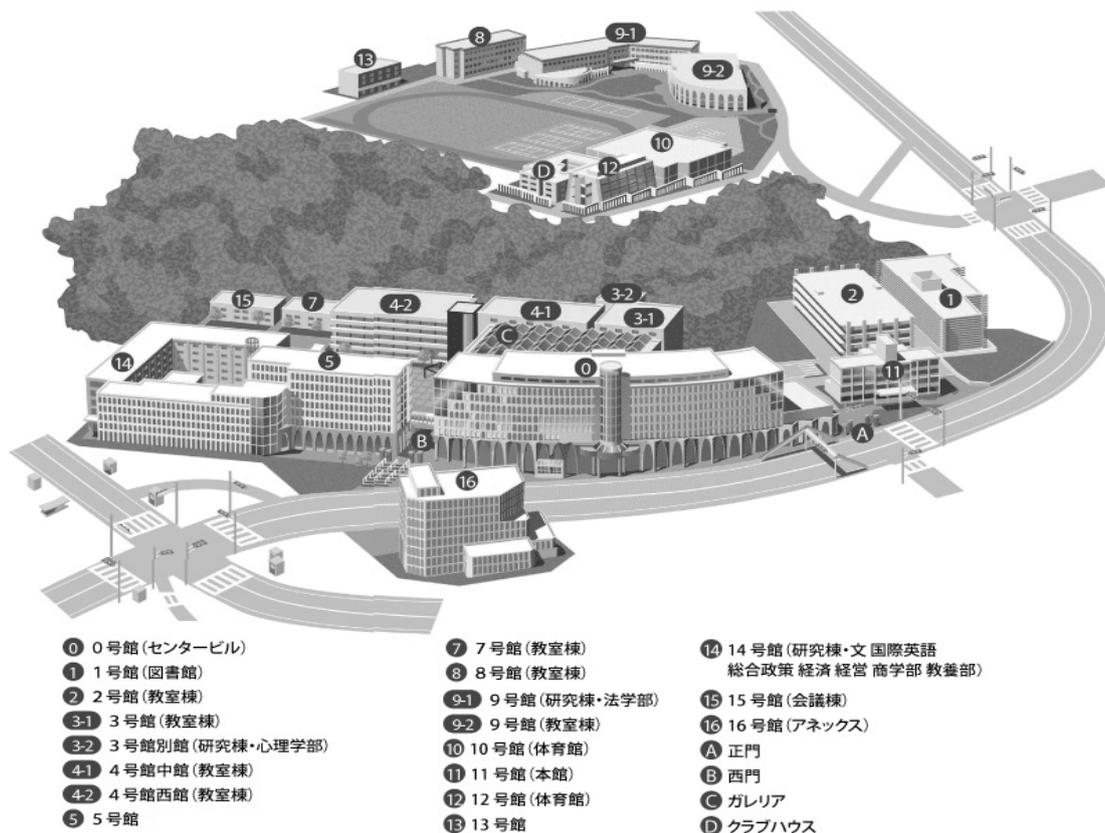
—— 名鉄豊田線 地下鉄鶴舞線から豊田市まで乗り入れ	—— 地下鉄東山線
—— 名鉄犬山線 地下鉄鶴舞線から犬山まで乗り入れ	—— 地下鉄桜通線
—— 地下鉄鶴舞線	—— 近鉄名古屋線
—— 地下鉄名城線 スクールバス



〒466-8666 名古屋市昭和区八事本町 101-2 TEL(052)835-7111
 事務局・お問合せ先： 052-835-7712 hyasumur@lets.chukyo-u.ac.jp

- 【JR 名古屋駅から】、【(大阪・奈良から)近鉄 名古屋駅から】
 - 地下鉄〈東山〉線 (藤が丘行き) 一駅目「伏見」駅 下車・乗り換え
 - 〈鶴舞〉線 (赤池/豊田市行き) 八駅目「八事(やごと)」駅下車 5番出口より大学に通じる
 - 【中部国際空港から】
 - 名鉄〈常滑・空港〉線 (名古屋方面行き) 「金山」駅 下車・乗り換え
 - 地下鉄〈名城〉線 (左回り・八事方面) 九駅目「八事」駅下車 5番出口より大学に通じる
- * 地下鉄「八事やごと」駅5番出口からは直接大学に通じていますので、雨天でも傘は不要。
 地下鉄 名古屋駅—八事駅 の料金は 260 円

中京大学名古屋キャンパス



- | | | |
|---------------------|------------------|--|
| ① 0号館(センタービル) | ⑦ 7号館(教室棟) | ⑭ 14号館(研究棟・文 国際英語
総合政策 経済 経営 商学部 教養部) |
| ② 1号館(図書館) | ⑧ 8号館(教室棟) | ⑮ 15号館(会議棟) |
| ③ 2号館(教室棟) | ⑨-1 9号館(研究棟・法学部) | ⑯ 16号館(アネックス) |
| ③-1 3号館(教室棟) | ⑨-2 9号館(教室棟) | A 正門 |
| ③-2 3号館別館(研究棟・心理学部) | ⑩ 10号館(体育館) | B 西門 |
| ④-1 4号館中館(教室棟) | ⑪ 11号館(本館) | C ガレリア |
| ④-2 4号館西館(教室棟) | ⑫ 12号館(体育館) | D クラブハウス |
| ⑤ 5号館 | ⑬ 13号館 | |

開催校からのお知らせ

- ※今回の総会・研究発表会については、宿泊の斡旋、弁当の手配はありません。
- ※会場となる中京大学名古屋キャンパス内の駐車場は少なく、学外者は利用できませんので、地下鉄でお越しください。
- ※名古屋市内には、名古屋駅、金山駅、中心部の栄地区などに多数の宿泊施設がございますが、できるだけ早くに予約されることをお奨め致します。
- ※食事につきましては、大学近辺に飲食店・コンビニエンスストア等が多数所在しますので、随時それらをご利用ください。土曜日はセンタービルの食堂もご利用になれます。
- ※図書館の利用
図書館のうち、センタービル3階のライブラリー・サービスセンターは午前9時から午後10時まで開かれています。

屋食情報 (当日、会場においても情報を提供致します。)

名古屋キャンパス

センタービル

- 学生食堂「プレジール」
- レストラン「イタリアン・トマト・カフェジュニア」
- カフェ「パスコ・クロワッサン」(階下のセンタービル入り口横)

土曜日(日曜日は営業なし)

- 午前11時—午後2時
- 午前11時—午後5時
- 午前10時—午後5時

3号館1階

- エルバ亭(どんぶり専門)

午前10時—午後1時30分

3号館地階

- マクドナルド

午前11時—午後1時30分

大学周辺

- 八事交差点(キャンパスより徒歩2分)周辺には各種食堂、レストランが多数あります。
- 大型スーパー ジャスコもあり、店内に各種食堂があります。
- 懇親会会場となっているサー・ウィンストン・ホテルにもレストランがあります。

中京大学に隣接して**興正寺**があります。休憩時の散策などには絶好の場所です。

貞享3年(1686年)、徳川光友によって創建された真言宗の寺。五重塔は国の重要文化財に指定されています。毎月5日と13日には縁日があり、たくさんの人でにぎわいます。

2. 7月理事会関連事項

7月の理事会は、7月19日(土)に東京外国語大学府中キャンパス総合文化研究所で開催されました。主な報告事項および審議事項は以下の通りです。

■**会員異動**—「会員異動」の項参照(会則第19条関連を含む)。

■**倫理規定策定WG**より日本ロシア文学会倫理綱領(素案)の提案があり、さらに検討することとなった。

■**2008年度総会・研究発表会のスケジュール**が決定した。

■**前年度よりの剰余金**について、2008-2009年度予算から150万を第3の基金にすることが理事会で了承された。

***会報35号の「3.5月理事会関連事項」に誤植がございました。以下の通り訂正し、お詫び申し上げます。**

(誤) ■**広報委員長**より委員会のHPはグレチコ委員が担当することが報告された。

(正) ■**国際交流委員長**より委員会のHPはグレチコ委員が担当することが報告された。

3. 学会賞決定

7月19日に行われた日本ロシア文学会・学会賞選考委員会において、第5回ロシア文学会賞受賞者が以下の2氏に決定いたしました。授賞式は10月11日(土)の総会時に行われます。詳しくは会誌第40号をご覧ください。

高橋 沙奈美 氏

水野 晶子 氏

4. 会員異動

(2008年7月理事会)

入会:

〔氏名(所属/支部) 専攻分野(推薦者)〕

田村愛火(札幌大学/北海道) 日露交流史、ロ

シア語教育(鈴木淳一、ジダーノフ・ヴラデーミル)

エフィーモワ・ゾーヤ(千葉大学/関東) ロシア語と日本語の談話(鴻野わか菜、古賀義頭)

ブガエワ・アンナ(千葉大学/関東) 言語学(古賀義頭、鴻野わか菜)

古宮路子(東京大学・院/関東) 20世紀ロシア文学(長谷見一雄、沼野充義)

退会: 麻生夕子(西日本)、伊藤好子(関東)、今井由紀子(関西)、片岡浩史(関西)、北出大介(関東)、金春和(関東)、久保田文明(関東)、島田潤(関東)、杉里直人(関東)、土居紀子(関西)、ドーリン・アレクサンドル(関東)、中野生穂(関西)、原田陽三(関西)、宮廻和男(関東)、山本洵一(関東)、吉村南(関東)、渡邊日日(関東)

逝去: 大谷深(関西)、工藤精一郎(北海道)、工藤幸雄(関東)

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

5. 国際交流委員会より

ロシア文学、ロシア語学研究に関する世界レベルの情報は、インターネットが普及したおかげで個人でもわりと容易に入手できます。しかし、会員相互間で貴重な情報を共有できた方が日本ロシア文学会全体のレベル向上にとっても有益でしょう。今期の国際交流委員会はそのため、次のようなことをしようと考えています。

・国際会議などの情報は、グレチコ委員を中心に集約して、会のホームページに適宜掲載する。

・日本国内で行われる本会会員の関係する国際的な性格の会議、講演会、シンポジウム等についても積極的に情報収集し、それを整

理して会のホームページに掲載していただくよう働きかける。そのために Hotmail アドレスを作り (robunkokusai@live.jp)、外部からの情報提供と問い合わせに答えられようにする。集約には当分の間楯岡委員があたる。

・国際会議などに参加した、あるいはこれから出かけようとしている本会会員からの情報なども収集して掲載したいので、関係する会員は、前項に掲げた Hotmail アドレスに積極的に情報を提供して欲しい。

・本会の会報にも国際交流委員会の欄を設けていただき (以下の記事がその最初の試み) ペーパーで流した方がよいと思われる情報を提供する。担当は木村委員長。

* ロシア連邦科学アカデミー・ロシア文学研究所 (通称「プーシキン館」) の V. バグノ所長から 4 月末木村宛に、現在の日本における代表的なロシア文学翻訳者の名前とメールアドレスを至急知らせしてほしいという依頼がありました。これは、同研究所が競争的外部資金を得て設立をめざし、手始めに一部の機能を開始しようとしている「ロシア文学翻訳者国際センター」に関係したものです。個人情報提供には、ご本人の同意が必要だったのですが、急いでいたため、学会名簿に公表されていまして差し支えないであろうと思われる範囲で、できるだけ大勢の翻訳者の名前を伝えておきました。ご迷惑をおかけすることはないと思いますので、関係者にはどうかご寛恕いただきたいと存じます。

* 昨年千葉大学での総会の時に北大スラブ研究センター所長の松里氏 (ICCEES 日本代表) から、2010 年にストックホルムで行われる第 8 回 ICCEES 大会に、たくさんのパネルを出して欲しいという話がありました。多くの会員には、「ICCEES」というのがいかなるものなのか、パネルを用意するためには、いったい何をどうやったらいいのか、皆目見当がつかないというのが実際の感想だったのではないのでしょうか。本会もメンバーとなっている JCREES (日本のロシア・スラブ・東欧研究関係諸学会の連絡協議会) は最近、韓国スラブ学会 (KASS) および中国東欧・ロシア・中央アジア学会 (CAFERCAS) と協力して、東アジアからかなりの数のパネルを出すために協力する、2015 年の第 9 回 ICCEES 大会は日本・中

国・韓国のいずれかで開催されるよう努力し、どの国がホスト国になろうとも、他の二国は全面的にサポートするという合意をしたそうです。したがって、本会の会員がいろいろな形で第 8 回 ICCEES 大会に参加する機会も増えそうな状況になってきましたし、パネル申し込みのタイムリミットは迫ってきておりますので (本年末)、ご希望の方のために、かつて望月委員が加わったパネルを参考のために紹介したいと思います。ご覧になれば分かる通り、1) パネルのトピック、2) パネリスト名簿 (国籍が 3 カ国以上にまたがること)、3) パネルの趣旨、4) パネリストの業績などが届けるべき要件になります。その他の具体的な条件の詳細については、本会ホームページの国際交流委員会 HP に随時掲載しますのでアクセスしてご確認ください。

<パネル参考例>

Topic of the Panel: Sorokoniada: Vladimir Sorokin and Contemporary Russian Literature

Panelists:

Boris Lanin, Head of Literature, Academy of Education of Russia

Mattias Agren, University of Stockholm, Sweden, lecturer and Ph D student;

Kirill Postoutenko, head of department of Anthropology and Sociology at Smolny college (St Petersburg) and 2-years visiting fellow at Berlin University, starting from September, 2008;

Tetsuo Mochizuki, professor, Slavic Research Center, Hokkaido University, Japan

Purpose of the panel:

The purpose of the panel is to discuss the specific features of contemporary Russian literature with special attention to the novelist and playwright Vladimir Sorokin. The panelists regard Vladimir Sorokin as a symbolic figure of contemporary literary scene, because his creation is a curious mixture of so-called postmodern devices and the traditional obsession about Russia and Russianess. The panel will treat the following topics: Sorokin and literary pastiche; Sorokin and art; Sorokin and Russia; Sorokin and Stalinism; Sorokin and sexuality in literature.

● Concrete topics of the papers are to be announced

Related publications by the panelists:

Boris Lanin, 'Utopian Vision of Modern Russia', in *Beyond the Empire: Images of Russia in the Eurasian Cultural Context*, ed. by T. Mochizuki, Sapporo, Hokkaido University, 2008, pp.150-165.

B. Lanin, E. Vasilieva, 'Violence in the Contemporary Russian Utopia and Anti-Utopia', in M. Levitt and T. Novikov (eds.), *Times of Trouble: Violence in Russian Society and Culture*, Wisconsin University Press, 2007, pp. 342-348.

B. Lanin (ed. and major contributor), *Contemporary Russian Literature*, Moscow,

- Ventana, 346 pp., 2005; 2006 - 2nd revised edition.
- B. Lanin Early Mayakovsky's Traditions in Vladimir Sorokin's Prose, in *Die Slavische Welt*, 1999, pp. 75-80.
- Kirill Postoutenko, "Die Geburt des Rubels aus dem Geist des Platonismus (Zur Entstehungsgeschichte des sowjetischen Geld- und Wertesystems)", in: *Zeit-Räume: Neue Tendenzen in der historischen Kulturforschung aus der Perspektive der Slavistik*, hrsg. v. Susi K. Frank u. Igor' P. Smirnov. Postoutenko, Kirill., Frank, Susi K.; Smirnov, Igor' P. [Editeur(s)]. 2002, pp. 75-92, *Wiener Slavistischer Almanach* 49.
- Kirill Postoutenko, *Poets of hope and despair: the Russian symbolists in war and revolution 1914-1918*. Hellman, Ben. Helsinki, Institute for Russian and East European Studies, 1995, 421 p.
- Kirill Postoutenko, *Svjaščennye cveta Andreja Belogo*. Postoutenko, Kirill. *Welt der Slaven*, 41, 1996, p. 153-66.

- Тэцуо Мотидзуки. "Играя со словами классики: Достоевский в современной литературе," Tetsuo Mochizuki, ed., *Russian Culture on the Threshold of a New Century*, Sapporo: Slavic Research Center, 2001. pp. 159-177
- Tetsuo Mochizuki, «The Perception of Dostoevsky by Contemporary Russian Writers: Reminiscences, Stylizations and Remakes» in Halina Janaszek-Ivanickova, ed., *The Horizons of Contemporary Slavic Comparative literature Studies*, Warszawa: Dom Wydawniczy ELIPSA, 2007, pp. 109-121.
- Тэцуо Мотидзуки / Каё Фукума. Сколько картин вмещает «Роман»? Владимир Сорокин и русский пейзаж // Tetsuo Mochizuki, ed., *Beyond the Empire: Images of Russia in the Eurasian Cultural Context*, Sapporo: Slavic Research Center, 2008, pp. 423-447.

6. 編集委員会より

会誌「ロシア語ロシア文学研究」次号（第41号・2009年10月刊行予定）への投稿申し込みは、本年（2008年）11月末日が締め切りです。投稿希望者は、学会事務局宛に以下の2点をご郵送ください。

1) 論文要旨：A4用紙1枚（1,000字程度）

2) 氏名・住所（連絡先）・電話・FAX・メールアドレス：1)とは別紙に記す。

海外滞在中などのやむをえない場合に限り、FAX、メールなどでの申し込みを認めます。

この投稿申し込みは、今年度の学会報告をされたかどうかに関係なく、すべての投稿希望者に必要です。論文以外の原稿（書評、学会展望など）の投稿も歓迎します。

投稿される論文等はすべて査読審査を受けることになります。投稿申し込み締め切り後、各投稿論文等に対して査読審査員を決定し、委嘱します。

申し込みの段階で編集委員会が投稿をお断りすることはありませんので、申し込み後はすぐに原稿の執筆にとりかかってください。投稿論文等の提出締め切りは来年（2009年）1月末日（送り先は後日お知らせします）、審査結果は4月中旬に通知いたします。

投稿申し込みにあたっては、「日本ロシア文学学会会誌規定」「会誌執筆要項」「投稿審査要領」（会誌表紙裏に掲載）もご参照ください。

編集委員会

日本ロシア文学学会 会報 第36号

(2008年9月1日発行)

発行人 井桁貞義

編集人 日本ロシア文学学会事務局

〒183-8534

東京都府中市朝日町3-11-1

東京外国語大学外国語学部匹田研究室内

hikita@tufs.ac.jp